

芭蕉句碑巡り【愛知県】 その1

松尾芭蕉の句碑は全国津々浦々に存在します。芭蕉真筆もありますが、芭蕉の門人や俳句愛好家たちが競って設置した句碑が多くあります。設置された年代も江戸時代から近現代まで様々です。愛知県にも数十箇所点在しており、それを辿ってみました。

今回は、春日井市にある句碑を紹介します。

① やましき 山路来て何やらゆかし すみれくさ 葦草

【所在地】春日井市内津町 17

内津神社の隣、妙見寺の裏山に

「すみれ塚」があります。

この句は「野ざらし紀行」に収められています。



すみれ塚



「山路来て」の句碑

句意は、「山路を越えて来て、ふと道のほとりにすみれが咲いているのに気がついた。思いがけなく見つけたすみれの花は、何とゆかしく、心がひかれることだ。」

② いざとも ほむぎくら 来與に穂麦喰はん草 枕

【所在地】春日井市中町 57

名鉄春日井駅から徒歩3分で

「正念寺」に着きます。

この句も「野ざらし紀行」に収められています。



正念寺



「来與に」の句碑

句意は、「草を枕とする漂泊の旅なので、穂麦を食って一時の飢えをしのぐような苦勞もあるが、その乏しさや苦難に堪えて、さあ共に旅を続けよう」